



地域リハOT便り vol.10

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、**四日市市**で活躍する作業療法士の取り組みについて情報収集しましたので紹介します。

四日市市のOT活動（四日市市担当主体会病院：浅生千晶）

今回は四日市市で作業療法士が活躍している「認知症カフェ」「地域ケア会議」について紹介させていただきます。

①認知症カフェ：メモリーカフェ‘日永’

メモリーカフェ‘日永’は、「場」「仲間」「人材育成」「学び」「役割」をキーワードとして認知症専門医が中心に運営している広域型認知症カフェです。作業療法士は認知症当事者同士の交流支援を目的に回想法を実践しています。

2016年から月1回開催していましたが、新型コロナウイルス感染症のため開催方法を検討し、リアルとオンラインを併用した5会場分散で開催しています。回想法では作業療法士がリーダーとなり、認知症当事者の事前情報（特に生活歴）をもとに回想法のテーマを決定します。そしてテーマにあった写真やオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの質問を記載した資料を作成し、実際の物品も持参して回想法に活用しています。



メモリーカフェでの回想法の様子

②自立支援型地域ケア会議

四日市市では平成31年度から毎月1回、自立支援型地域ケア会議が開催されています。数名の作業療法士がアドバイザーとして登録されており、会議には1名ずつ参加しています。会議では「日常生活動作能力、地域活動への参加など社会適応能力の回復、維持、悪化の防止」に対する助言が求められています。

現在は新型コロナウイルス感染症拡大により中止となってしまう月もありますが、可能な限り事例提供者・アドバイザー・市の担当職員ら全員がオンラインにて会議を行っています。

四日市市の地域ケア会議で提示される事例には、在宅生活を送っている要支援者で徐々に生活困難感が出現してきた事例や、日常生活は自立できていても社会参加へ結びついていない事例などがあります。各事例について、作業療法士として心身状態・日常生活を改善していくための方法やより自立した生活・QOL向上のために取り組めそうなことなどを提案し、生活全般の改善に向けて多職種で検討しています。